

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471100406		
法人名	医療法人 悠隆会		
事業所名	グループホーム「たんぼぼの家」A棟		
所在地	大分県宇佐市大字樋田45-1		
自己評価作成日	令和 5年 10月 30日	評価結果市町村受理日	令和6年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和5年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者が家庭的な雰囲気の中で、安心・安全な生活が継続できる様に、一人ひとりに合った支援を心掛けている。  
ご家族様とは、心配事等があれば直に相談して頂ける関係が築けている。  
明るい雰囲気の中で、職員・ご利用者様の楽しそうな笑顔が出てくるアットホームな施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・食事は3食とも事業所内で作っており、すべて手作りの家庭的な食事となっている。
- ・食事は職員も同じ席で食べ、見守りと同時に会話を楽しみながらの食事となっている。
- ・職員同士仲が良く、気軽に意見が言え協力体制が出来ている。
- ・法人内の病院が協力医となっており、訪問診療を行い家族の安心につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム「たんぼぼの家」の理念を忘れない様に、毎朝のミーティング時に唱和して実践に繋げている。	法人理念に加え事業所独自の理念を掲げ、共有スペースや事務所に掲示し、日々理念に基づくケアを心掛けている。地域の区長にも事業所の広報を配布している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナの影響の為、地域との交流を控えていたが、少しずつ交流を拡げていきたい。	地域の方から行事の連絡をもらったり、事業所からは運営推進会議への参加を呼び掛けている。事業所の秋祭りが再開すれば地域の人にも参加を呼び掛けたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナの影響で、地域貢献が出来ていない状態だった。今後、地域貢献の機会を増やしていけるように交流していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	R5・5月より再開し、施設ホールにて行っている。参加者より意見を頂き、サービス向上に努めている。	運営推進会議では家族から、避難訓練について地域の人との協力も必要ではないかとの意見が出た。また、クリーニング代が高くなり負担が大きくなったとの意見もあった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事あるごとに担当者に連絡を行い、助言を頂くことでサービス向上に努めている。	運営推進会議の参加もあり、こちらからも疑問や不明な点があれば直接出向き、問題解決に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3ヶ月に1回開催し、見直しを検討している。勉強会でも身体拘束に関しての勉強を定期的に行い、身体拘束をしないケアに努めている。	身体拘束委員会には職員が毎回参加し、勉強会では職員とも共有している。ミトンの事例があり、どうすれば外せるのかを検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会でも不適切ケアを取り上げ、学習・理解できるように取り組んでいる。		

事業者名:グループホーム「たんぼぼの家」A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員と勉強会で理解を深める様にしている。 講習会の機会があれば、受講を促していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際は十分な説明を行い、理解・納得された上で行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議への参加を求め、意見や要望が聞ける機会を設けている。 頂いた意見を基に、運営推進会議の向上に努めている。	家族が月に1回利用料の支払いに来られた時に意見や要望を聞いている。歩かせてほしいとの要望もあり、なるべく散歩に出かけるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会等で意見や提案を頂き、検討した上で反映している。	勉強会の時や、個人的にも意見を言いやすい環境であり、勤務体制についての意見などでも改善されることが多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい労働環境作りに努めている。 資格取得や講習会参加を促し、個々の向上心に繋がる様に支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナの影響で行えない状態が続いていた。これからは職員の力量に応じ研修の要請を行い、少しずつ研修等に参加できる機会を作っていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の見学等が出来ればと思うも、実現は出来ていない。機会を作り実施したい。 職員同士の意見交換を行い、ケアの質の向上に繋げていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から入所に至るまで、十分にお話をお聴きし、ご本人様やご家族様の気持ちに寄り添える様に努めている。入所されてからも、改善点があれば意見を聞き、良好な関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の際、ご本人様やご家族様に不安や要望について傾聴している。入所後もご本人様の要望等を聴き、ご家族様に報告・相談し信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人様やご家族様の状況・思いを把握し、先を見据えた支援が出来る様な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	側に寄り添いお話を傾聴し、安心して生活が送れるように支援する事で、良好な関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の思いを傾聴し、ご家族様に相談・報告して、ご協力をお願いする事もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様が昔の話をされた時は、共通の話題でお話をしたり、近場の場所であれば一緒に行ったりしている。	地元の利用者や職員が多く、地域の情報を知らせてあげたり、近所の方が柿を持ってきてくれたりしている。また年賀状を出す支援も行っている。母体での検診時に自宅を見に行くなどの支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を見極め、席の位置を考え、トラブルや孤立が起こらない様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、ご本人様・ご家族様の相談に応じ、支援が必要であれば対応する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の思いを聴いたり、介護記録を参考に希望・意向に添えるように努めている。職員とも話し合い、検討している。	日頃の会話の中や、表情から思いや意向をの把握に努めている。会話の難しい人には家族から情報を得たり、アセスメントから把握し、勉強会時にほかの職員とも情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活歴や環境、日々の暮らし方等のアセスメントを行っている。入所前に利用されている居宅サービス等があれば、連携を摂り、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の過ごし方や心身状態等、職員間で情報共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様からの要望もお聴きしながら、ご本人様の希望に添えるように、日々の記録の中から職員と話し合いを行い介護計画を作成している。	3か月に1度のモニタリングを行い、家族や担当職員の意見も踏まえ見直しを行っている。介護計画書には具体的な支援が細かく記入されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの日々の様子を介護記録に記入している。見直しが必要であればモニタリングを行う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状況、その時々生まれるニーズに応じて対応できるように、多様な支援の方法を講じ、臨機応変に取り組んでいる。		

事業者名:グループホーム「たんぽぽの家」A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運営推進会議等で、より良い関係を強化し、色々な意見や情報を頂き、ご本人様が安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来る様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週水曜日、訪問診療の受診を行っている。ご本人様・ご家族様の希望があれば、専門医への受診、情報提供を行っている。	全利用者が健康管理として訪問診療を受けている。以前からのかかりつけ医を受診するときは、事業所から情報提供を行い、家族の対応で受診している。緊急時には家族に連絡を取り、看護師が受診対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、ご利用者様の状況変化や異常に気付いた時は、看護師に報告し指示をもらう。 看護師は、訪問・受診をするか適切に指示を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が入院した際には、支援方法等に関する情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針については、契約時に説明している。対応については、ご利用者様の状況に合わせて行っている。ご家族様より相談を受けた際にも、同様の対応を行っている。	入居時に家族に説明をしている。また毎月の報告時にも状況を伝え、重度化や終末期に向けての方針を伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、事故発生時に対応できるようにしている。 定期的に勉強会で取り上げ、職員間で周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回、避難誘導訓練を実施している。(火災・水害)年2回、消防署・防災会社立ち合いにて、1・2階合同訓練も行い、職員への周知も出来ていると思われる。	毎月避難訓練を行っている。水害を想定した訓練では1階の有料ホームの人たちの避難も受け入れた。備蓄も徐々に増やそうと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会にて、接遇マナーについても定期的に取り上げている。 個人の人格を尊重し、一人ひとりに合った声掛けを心掛けている。	定期的に研修を行い、一人ひとりの人格を尊重し、親しみを持ちながらもその人にあった言葉かけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの行動を観察し、希望や関心事を見極め、自己決定の場面を作っている。 意思表示が困難な方には、ジェスチャー等を交え確認を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いに添えるように、何をしたいのかお聴きし、対応できるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 出来ることもある	その人らしい身だしなみを心掛け、季節に合った服を着て頂く様に支援している。 行事で浴衣を着たりお化粧をすると、皆様、嬉しそうにして下さる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好みに合う食事提供は難しいが、食べられない物がある場合は変更する事がある。 彩り良く、食欲をそそる様に調理している。 一緒に盛り付けや食器拭き等、行って下さる。	3食とも事業所で調理し、音や匂いで五感を刺激し、食卓は職員も一緒に囲み、見守りながらの食事となっている。いただいた野菜や果物も使い、季節に応じた食事を提供している。ポン菓子の要望にも応えた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量のチェックを行っている。 食事や水分が不足される方については、ご家族様に連絡し、好きな食べ物やジュース等を持って来て頂き、協力をお願いしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行っている。 自力で出来る方は側で見守りし、出来ない方は介助している。夕食後は、義歯洗浄を行い、管理している。		

事業者名:グループホーム「たんぽぽの家」A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録表を確認し、排泄パターンを把握してトイレ誘導を行っている。プライバシーに配慮し、声掛けを行い、出来ない所は介助している。	日中はほとんどの人がトイレでの排泄を行っている。排泄パターンを把握し、一人ひとりに沿った声掛けを行っている。夜間はポータブルトイレの利用で自立の人や見守りも行い、睡眠を邪魔しないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	3~4日、排便の確認がない時は、多めに水分摂取を促したり冷たい牛乳を飲んでもらったりしている。食事についても、食物繊維の多い食材を使う等の工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回、入浴。入浴拒否がみられた時は、他の職員が声掛けを行ったり入浴時間をずらしたりして、入浴して頂けるように工夫している。	週2回の入浴であるが各ユニットで曜日をずらし、どの日の入浴も可能となっている。仲の良い人と一緒に入浴するなど、入浴が楽しくなるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、夜間、睡眠が取れる様に支援している。一人ひとりの睡眠パターンを把握し、眠くない時はホールで過ごしてもらい側で見守りを行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と連携をとり、健康管理に努めている。飲み忘れや誤薬がない様に気を付け、服薬されるまで側で見守りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や好みを把握し、その人に即した日々を楽しく過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	園外を散歩したり、最近では菊・コスモス観賞にも出掛けられている。洗濯物を職員と一緒に干しに行かれたりされる。	散歩を兼ねて近くのコスモス見学や、1階に洗濯物を干しに行ったり、庭を散歩したりしている。また受診時に家族と車で出かけるのも楽しみの一つとなっている。	



事業者名:グループホーム「たんぼぼの家」A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については、ご家族様説明・相談し、所持している方はいない。 欲しい物があれば、ご家族様に連絡し購入して頂くか、こちらで購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望があれば、ご家族様に電話し会話してもらっている。ご家族様からの電話も取り次いでいる。年賀状等の手紙を書いてもらい、投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、季節を感じられるように、利用者様と一緒に作成した壁面飾り等を展示している。 各居室は、利用者様に合った室温調整を行っている。	ホールには利用者とともに作った貼り絵や飾りを掲示し、季節を感じるよう工夫されている。居室までの廊下には外出時のにこやかな写真が飾られ、思い出のきっかけになっている。各部屋の入口に災害時の安否確認カードがつるしてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人様の意向を尊重し、ソファーや居室で過ごしたい時はゆっくりして頂いている。 気の合った利用者様同士での席にと配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際に、使い慣れた物や本人様の好きな物を持って来てもらっている。 ご家族様にも本人様の好きな物を聞いたりして、居心地よく過ごして頂けるように工夫している。	居室には自宅から持ち込んだたんすや家族の写真が飾られ、ポータブルトイレには布をかぶせるなど、プライバシーへの配慮もうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールには危険防止の為、ソファー・テーブル・椅子以外はなるべく置かない様にしている。 ご自分の居室が分かる様に、入口に飾りを付ける等の工夫をし、自由に出入りできるように配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471100406		
法人名	医療法人 悠隆会		
事業所名	グループホーム「たんぽぽの家」B棟		
所在地	大分県宇佐市大字樋田45-1		
自己評価作成日	令和 5年 10月 30日	評価結果市町村受理日	令和6年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和5年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用様が家庭的な雰囲気の中で、安心・安全な生活が継続できる様に、一人ひとりに合った支援を心掛けている。  
ご家族様とは、心配事等があれば直に相談して頂ける関係が築けている。  
明るい雰囲気の中で、職員・ご利用様の楽しそうな笑顔が出てくるアットホームな施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【グループホーム「たんぽぽの家」A棟】に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム「たんぼぼの家」の理念を忘れない様に、毎朝のミーティング時に唱和して実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナの影響の為、地域との交流を控えていたが、少しずつ交流を拡げていきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナの影響で、地域貢献が出来ていない状態だった。今後、地域貢献の機会を増やしていけるように交流していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	R5・5月より再開し、施設ホールにて行っている。参加者より意見を頂き、サービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事あるごとに担当者に連絡を行い、助言を頂くことでサービス向上に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3ヶ月に1回開催し、見直しを検討している。勉強会でも身体拘束に関しての勉強を定期的に行い、身体拘束をしないケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会でも不適切ケアを取り上げ、学習・理解できるように取り組んでいる。		

事業者名:グループホーム「たんぽぽの家」B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員と勉強会で理解を深める様にしている。 講習会の機会があれば、受講を促していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際は十分な説明を行い、理解・納得された上で行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議への参加を求め、意見や要望が聞ける機会を設けている。 頂いた意見を基に、運営推進会議の向上に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会等で意見や提案を頂き、検討した上で反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい労働環境作りに努めている。 資格取得や講習会参加を促し、個々の向上心に繋がる様に支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナの影響で行えない状態が続いていた。これからは職員の力量に応じ研修の要請を行い、少しずつ研修等に参加できる機会を作っていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の見学等が出来ればと思うも、実現は出来ていない。機会を作り実施したい。 職員同士の意見交換を行い、ケアの質の向上に繋げていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から入所に至るまで、十分にお話をお聴きし、ご本人様やご家族様の気持ちに寄り添える様に努めている。入所されてからも、改善点があれば意見を聞き、良好な関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の際、ご本人様やご家族様に不安や要望について傾聴している。入所後もご本人様の要望等を聴き、ご家族様に報告・相談し信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人様やご家族様の状況・思いを把握し、先を見据えた支援が出来る様な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	側に寄り添いお話を傾聴し、安心して生活が送れるように支援する事で、良好な関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の思いを傾聴し、ご家族様に相談・報告して、ご協力をお願いする事もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様が昔の話をされた時は、共通の話題でお話をしたり、近場の場所であれば一緒に行ったりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を見極め、席の位置を考え、トラブルや孤立が起らない様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、ご本人様・ご家族様の相談に応じ、支援が必要であれば対応する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の思いを聴いたり、介護記録を参考に希望・意向に添えるように努めている。職員とも話し合い、検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活歴や環境、日々の暮らし方等のアセスメントを行っている。入所前に利用されている居宅サービス等があれば、連携を摂り、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の過ごし方や心身状態等、職員間で情報共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様からの要望もお聴きしながら、ご本人様の希望に添えるように、日々の記録の中から職員と話し合いを行い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの日々の様子を介護記録に記入している。見直しが必要であればモニタリングを行う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状況、その時々生まれるニーズに応じて対応できるように、多様な支援の方法を講じ、臨機応変に取り組んでいる。		

事業者名:グループホーム「たんぼぼの家」B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運営推進会議等で、より良い関係を強化し、色々な意見や情報を頂き、ご本人様が安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来る様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週水曜日、訪問診療の受診を行っている。ご本人様・ご家族様の希望があれば、専門医への受診、情報提供を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、ご利用者様の状況変化や異常に気付いた時は、看護師に報告し指示をもらう。看護師は、訪問・受診をするか適切に指示を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が入院した際には、支援方法等に関する情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針については、契約時に説明している。対応については、ご利用者様の状況に合わせて行っている。ご家族様より相談を受けた際にも、同様の対応を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、事故発生時に対応できるようにしている。定期的に勉強会で取り上げ、職員間で周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回、避難誘導訓練を実施している。(火災・水害)年2回、消防署・防災会社立ち合いにて、1・2階合同訓練も行い、職員への周知も出来ていると思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人のプライバシーに配慮し、その人に合った声掛けを行うように心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時の服選び等、選択肢をいくつか設ける事で自己決定が出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人なりのペースで生活が出来る様に、どうしたいのかお聴きし、対応出来る様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装をして頂く様に心掛けている。 食べこぼし等で汚れた際も、すぐに着替えられる様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好みに合う食事提供は難しいが、食べられない物がある場合は変更する事がある。キザミ食でも、彩り良く盛り付ける様に心掛けている。 一緒に食器拭き等、行って下さる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量のチェックを行っている。 食事や水分が不足される方については、ゼリーやジュース等、本人様が食べやすい物で摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行っている。 声掛けに応じられない方は、トイレ等にいかれた際に再度、声掛けを行い口腔ケアをしてもらっている。		



事業者名:グループホーム「たんぼぼの家」B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔の長い方は、定期的に声掛けを行い排泄を促している。プライバシーに配慮し、声掛けを行い、出来ない所は介助している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、起床時に牛乳を飲んでもらったり、入浴後にヤクルトを飲んでもらったりしている。自然に排便が出来る様に、水分補給や食事形態にも気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回、入浴を行っている。入浴拒否の激しい方は、声掛けや誘導の仕方等を工夫し、本人様が入りたくなる様に促している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、睡眠が取れる様に、日中の活動を促している。日中の休息が長くない様に気を付け、規則的な生活習慣になる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は、側に付いて服薬の確認を行う。飲み忘れや誤薬の無い様に、名前の確認も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や好みを把握し、その人に即した日々を楽しく過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は、園外を散歩したりしている。季節の行事に合わせて、本人様の希望の場所に行ける様に支援していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については、ご家族様説明・相談し、所持している方はいない。 欲しい物があれば、ご家族様に連絡し購入して頂くか、こちらで購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望があれば、ご家族様に電話し会話してもらっている。ご家族様からの電話も取り次いでいる。年賀状等の手紙を書いてもらい、投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、季節を感じられるように、利用者様と一緒に作成した壁面飾り等を展示している。 各居室は、利用者様に合った室温調整を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人様の意向を尊重し、ソファーや居室で過ごしたい時はゆっくりして頂いている。 気の合った利用者様同士での席にと配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際に、使い慣れた物や本人様の好きな物を持って来てもらっている。 ご家族様にも本人様の好きな物を聞いたりして、居心地よく過ごして頂けるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールには危険防止の為、ソファー・テーブル・椅子以外はなるべく置かない様にしている。 ご自分の居室が分かる様に、入口に飾りを付ける等の工夫をし、自由に出入りできるように配慮している。		